

三か月後の報告(10月7日)

(前略)漢字ゲームを始めてから、ちょうど三か月を経過した現在、約50字の漢字が読めるようになり、(注、参考までに言いますと、小学校で一年間に学習する漢字の数が二百字を越える学年はありません。つまり、三か月間に50字以上の漢字を学習させることはないのです)よくこんなに覚えたものだと、家内と話し合っています。

8月末に、長男が盲腸で入院して、付き添いのため、約2週間くらいまったくできなかつたので、実際は、二か月半で50字の漢字を覚えたこととなります。(中略)

夜、風呂に入る前に、気分の良い日にはカルタ取りの形式で取らせていますが、自分から進んで、「ゲームをやろう」と言う日が増えてきて、喜んでいます。

昨日は、おばあちゃんと風呂に入って、タオルの字を読んだ、ということで、おばあちゃんも大喜びでした。長男の入院中、病院のエレベーターの中で、愛子が“電話”という字を見つけ、「お父さん、電話と書いてある」と言ったり、朝、新聞を読んでいると、知っている漢字を見つけて読むこともあります。

テレビも、時間は短いですが、長男と一緒に、笑いながら見ている

ことがあるようになってきました。

先生の“赤いろそく”(『楽しい漢字』の中の本の一冊で、文章はレコードで聞くこともできるようになっている)のお話は、まだ内容がわからないようですが、引き続いて、テープに吹き込んで、時折聞かせております。

アスクミーは、少しずつ興味が出てきており、遊ぶようになってきています。(中略)

最近、漢字を覚えるペースがやや遅くなってきています。また、友達との遊びの様子を見ていますと、やはりまだまだ友達の中に混じって一緒に遊ばせん。早くお友達と一緒に遊べるようになってくれたらと思っています。(中略)

話が思うようにできず、従って話が通じないので、友達との接触がうまくできないこと、仲間として入っても、仲間にされないことなどで、自分の思うようにならないため、砂をかけた、かけられたり、石を投げたりすることもあるようです。(中略)

最近、夕食時に、愛子がペチャクチャといろいろ言うようになってきて、明るくなっていることを喜んでいます。長男の小学校での話を聞いて相手になったり、話の中で「何？ 何？」とばかり言っていたのが、今では「どうしたの？」「どうなったの？」「どうやった？」等の言葉が

出るようになってきています。

以上のように、漢字ゲームのおかげで、順次、頭も少しずつしっかりして来ているのを喜んでいますが、昨日、幼稚園を訪れて、同年齢の子供たちを見ておみると、愛子は、確かに進歩成長してきてはいるのですが、他の友達との差が、だんだんと大きくなっているように感じます。

先生、このように良くなってくれますと、また欲が出て、もっと良くなってほしい、と思う親心ですが、今後、愛子に対する学習方法は、同じやり方で続けて行けば、よろしいのでしょうか。ほかに学習させることなど、先生のお気づきになられます点を、よろしく御指導下さいませよう、お願い申し上げます。

漢字ゲームを始めてちょうど三か月、5歳8か月になった愛子ちゃんの現状が、詳しく書かれています。私はこれを読んで、この三か月の進歩は実にすばらしかった、と思います。足の弱い者は、どんなにがんばっても、丈夫な者より遅れます。同じように、頭の弱い者の進歩は、健全な者の進歩に比べますと、残念ですがとてもかないません。

けれども、がんばっていれば、だんだん強くなっていくのですから、そして人生は長いのですから、休まず努力することが大切です。まだ

まだいくら努力しても差が広がりますが、やがて、差をつめることが必ずできます。

さて、手紙を読んでまず感じることは、何よりも知的関心が高まり、意欲的、積極的に行動するようになってきたことがわかり、実にすばらしい進歩だと思いました。「砂をかけたり、石を投げたり」する行為の是非はさて置き、愛子ちゃんの成長の過程としてこれを眺める時、私は「しめた」と喜ばずにはいられません。なぜなら、それは愛子ちゃんに成長発展の強い原動力が備わっている証拠だからです。

知能は、頭を現実を使うことによって向上するものですが、同じ使うのでも、受動的な使い方ではタ力が知れています。何よりも、本人が知的な関心を持ち、意欲的、積極的に行動することが大切です。その点、愛子ちゃんの現状は、まことに好ましい状態になってきています。

だから、「最近ペースが遅くなってきている」とお父さんは心配していますが、成長のペースというものは、速い時あり、遅い時あり、で、決して一様ではなく、速いから良い、遅いから悪い、というものではないのです。

よく“尺取り虫”にたとえられるように、伸びたり縮んだりして進む、と考えたら良いと思います。友達と比較すると、次第に差が開く時期も

あれば、逆に、差を縮める時期もあるのですから。それに、今は差が開く時期なのですから、友達との比較をせずに、マイペースで、毎日、毎日を怠りなく努力することが肝要かと思います。

私は、この返事を八項目に分けて書きましたが、その第七項目に次のように書きました。

「夕食後、愛子ちゃんが積極的に話すようになったことは実に良い徴候です。その場合にはぜひ喜んで相槌を打ち、熱心に相手になってやって下さい。これは最も有効な治療法になるでしょう。

『どうしたの？』『どうなったの？』という質問の出始めたことも、これも実に素晴らしいことです。質問には何を差し置いても答えてやるのが大切です。(忙しい時でもいやな顔をせず、にこやかな表情で)

愛子ちゃんの話す言葉が不完全であってもそれをその場で正そうとしてはいけません。そうしたら、せっかく、積極的に話し始めた愛子ちゃんが、話をしない愛子ちゃんに逆戻りしてしまいます。

どうするのが良いかと言いますと、例えば『お父たん、あっち、行った』と言ったとしましょう。その時に、“お父たん”ではなくて“お父さん”よ。さあ、“お父さん”と言ってごらん』と言うのは最もまずい指導です。

『そう。お父さんが、あっちへ行ったの』という風に、復唱するような

形で、しかも正しい言い方で受け答えをしてやることです。こうして、正しい言い方をたびたび耳に聞かせていけば、いつかは自然と正しい言い方をするようになります。」

そして最後に、

「確かに悲観的な材料はまだまだ多いでしょうが、50字の漢字が読めるということは、実に素晴らしいことではありませんか。愛子ちゃんよりも一つ年上の一年生だって、二年生になるまでの1年間に、76字の漢字しか学習しないのです。だから一年生だって、愛子ちゃんほど漢字の読める子は、今はまだ一人もいないはずですよ。できる限り明るい面を見て、希望をもって努力して下さい。」

と、力づけて文を結びました。